

四万十市
第2期 地域福祉活動計画



人と人がつながる
笑顔あふれる四万十市

平成28年3月

四万十市社会福祉協議会

目次

第1章 地域福祉活動計画策定にあたって

- ①第1期計画からの学び1
- ②これまでの取組み2
- ③地域福祉活動計画の位置づけ・計画期間4

第2章 四万十市の現状と課題

- ①四万十市の概要等5
- ②人口の状況6
- ③人口構成7
- ④世帯の状況8

第3章 地域福祉活動計画の策定過程

- ①地域福祉活動計画評価検討委員会9
- ②実施目標評価経過11
- ③年度別評価17
- ④実施目標まとめ21

第4章 第2期四万十市地域福祉活動計画

- ①四万十市地域福祉活動計画体系図24
- ②基本構想25
- ③重点目標25
- ④活動目標（実施目標）26
- ⑤活動目標（実施目標）の内容概略29
- ⑥実施目標一覧表30

第5章 計画の進行管理・評価

- ①計画の評価見直し等31

資料編

- ①四万十市地域福祉計画 計画の体系図32
- ②社会福祉法 抜粋（参考）33
- ③四万十市地域福祉活動計画策定関係者等名簿34

第1章

地域福祉活動計画策定にあたって



第1章 地域福祉活動計画策定にあたって

①第1期計画からの学び

近年、人口構造の変化により少子高齢化はさらに進行し、平成27年4月現在の四万十市の高齢率は32.8%で、四万十市地域福祉活動計画（以下「第1期計画」という。）が策定された平成23年4月時点で29%でしたので3.8%増で、65歳以上の高齢者人口は1,066名増えており、一方、四万十市の人口は、4年間で947名減少しております。

また、世帯数は、平成27年4月で16,387世帯の内65歳以上の独居世帯3,517世帯、平成23年4月時点で16,149世帯（内65歳以上の独居世帯3,030世帯）、世帯数は238世帯増、65歳以上の独居世帯が487世帯と伸びが大きく、見守り等の必要性が高まっており、平成23年3月に起きた東日本大震災を経て、災害時など緊急時での見守りや助け合いの重要性が再認識されています。

今後も高齢者の更なる増加が見込まれ、こうした中、誰もが住み慣れた地域で安心していきいきと暮らしていくためには、福祉制度によるサービスだけではなく、地域の絆によって、お互いに助けたり、助けられたりする関係が一層必要とされます。

このような背景の中、地域福祉計画（住民と行政との協働により取り組む計画）と地域福祉活動計画（住民と社会福祉協議会との協働により取り組む計画）が、計画の期間に1年間のずれ（地域福祉計画が1年先行）があることから、本来第2期四万十市地域福祉活動計画（以下「第2期計画」という。）で、足並みを揃える必要がありましたが、実現に至らず第2期計画の期間を4年として、次期計画策定時に協同した福祉計画の策定を考えております。

平成23年3月に策定された第1期計画は、「無縁社会」「孤立化」「孤族」といった新たな社会リスクの中で、人と人のつながり（ネットワーク形成）の必要性や「笑顔は健康の源」というキーワードにより「人と人とがつながる笑顔あふれる四万十市」を基本構想としておりました。第1期計画期間中、評価検討委員会により計画の進捗状況と評価をいただき行った経過や、前述の背景などにより、第2期計画は、基本構想をそのまま引き継ぎ、重点目標・活動目標を見直しながら、第1期計画から引き継いだ実施目標や、新たなニーズに対応するための実施目標を設定しながら取り組む予定となっております。



②これまでの取組み

四万十市では前述のとおり、高齢化率約33%に迫り人口構造の変化と併せて人口減少、中心市街地の空洞化、空き家問題など課題が山積しております。

第1期計画では、次の3つの重点目標「孤立しないつながりづくり」「健康で生きがいを持って参加できる地域づくり」「思いやりの心づくり・支えあいの人づくり」の達成のため、各活動目標に向けて取組みました。中でも平成24年度から開始され、市と協働で行ってきた「四万十市健康福祉地域推進事業」は、重点目標と大きく重なるところがあることから、中心的な活動として地域の中に広がりを見せ、一定の成果が見え始めているところです。

四万十市健康福祉地域推進事業

健康福祉地域推進事業は、中村地域で行っていた、ふれあい談話室事業（介護予防事業）、西土佐地域で行っていた、保健推進事業（健康づくり事業）、社会福祉協議会が行っていた地区社協設立事業（支えあい地域づくり）の3つの母体から成り立っており、それを引継ぐ形で平成24年4月の段階で80ヶ所設立されていましたが、平成27年12月現在99ヶ所と増えました。特に支えあいの地域づくり事業については、41カ所から78ヶ所に増えており一定の成果が見えております。

四万十市健康福祉地域推進事業設立状況地区別一覧

平成27年12月1日現在

	地区	区数	委員会設立			支えあいの地域づくり			備考
			H24/4	H26/7	H27/12	H24/4	H26/7	H27/12	
1	中村	5	1	3	4	0	2	3	
2	下田	11	6	8	8	2	5	5	
3	東山	12	7	10	10	2	8	8	
4	具同	15	3	3	5	1	1	1	
5	東中筋	9	3	4	4	1	3	3	
6	後川	10	4	8	8	4	7	7	
7	八束	8	6	8	8	2	4	5	
8	蔵岡	5	4	4	4	2	4	4	
9	中筋	8	4	6	6	1	2	2	
10	大川筋	9	5	6	5	2	5	4	
11	富山	11	9	10	10	6	10	10	
12	西土佐	30	28	28	27	18	26	26	
	合計	132	80	98	99	41	77	78	

※中村地区のうち不破、角崎、カツラ山団地、(右山北区は平成27年度より独立)を除く38の地区については、拠点となる集会施設が少ないため、まとめて社協に委託をし、社協が1つの地区委員会を設立し運営している。よって、中村地区数は42であるが5とカウントしている。

支えあいマップの作成

第1期計画では「資源マップの作成」という活動目標であったが、平成24年度に住民流福祉総合研究所の木原孝久講師を招き、支えあいマップ作成の研修会を行ったことをきっかけに、活動目標も「支えあいマップの作成」と見直され、22カ所の健康福祉委員会の中で作成され、地域での見守り等に役立てられている。



左の写真は、住民の方と地区の情報を書き合ったり、住宅地図に書き込んだり、色分けしたり、シールを張り付けたりしている時の様子です。



右の写真は、大用地区を6地区に分け高齢者世帯と同居世帯等を住宅地図に貼り付けたものです。この後、一人ひとりの関係性を調べながら線を引く作業を行っています。

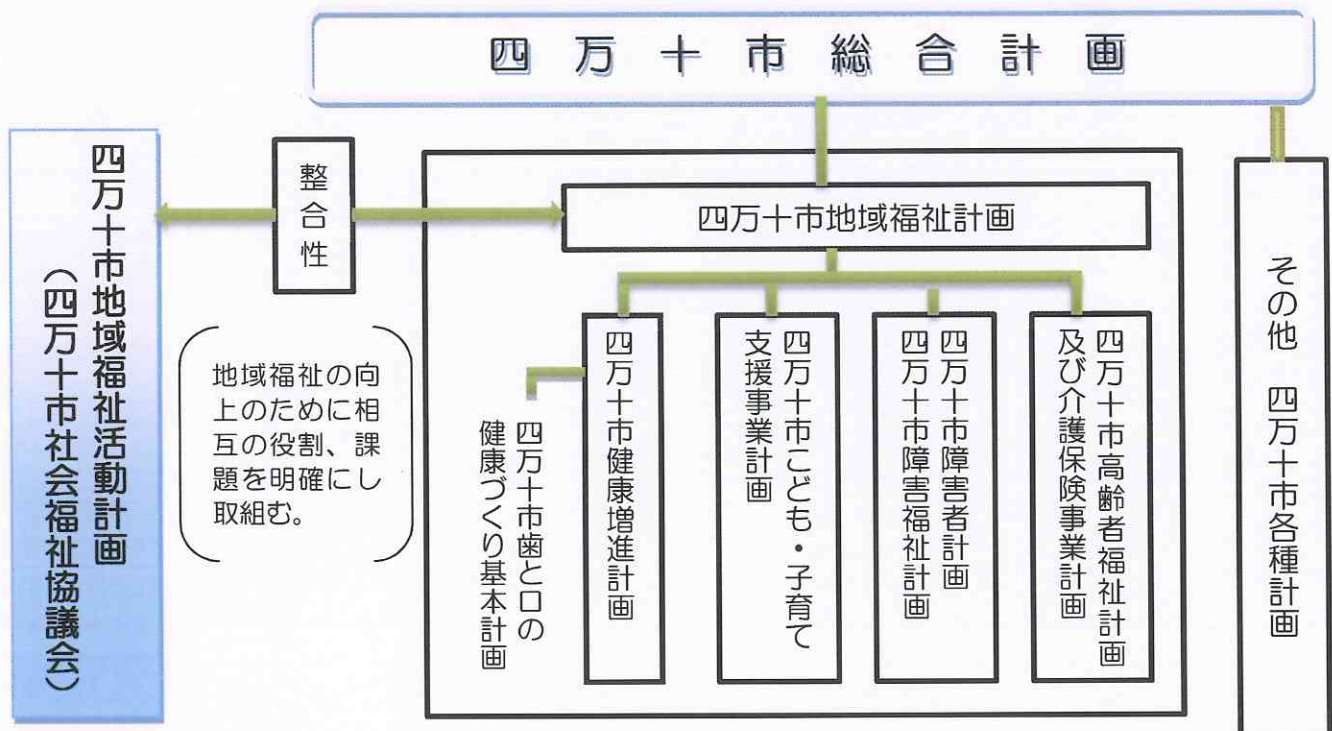


当事者団体・家族会等の支援

当事者団体・家族会等については、第1期計画当初まずどのような当事者団体や家族会があるかなどの調査から行い、法人格を持たない2つの家族会の会合やイベント等に参加し、家族の悩みを聞いたりしながら顔の見える関係を作り、必要に応じて関係機関等へ繋ぐことができた。

③地域福祉活動計画の位置づけ・計画期間

四万十市地域福祉活動計画は、四万十市総合計画をベースに四万十市地域福祉計画の傘下にある各計画（四万十市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画、四万十市障害者計画・四万十市障害福祉計画、四万十市こども・子育て支援事業計画、四万十市健康増進計画）との整合性図りながら、四万十市の地域福祉推進を目的とした計画です。第1期計画・第2期計画では、地域福祉計画と地域福祉活動計画は並列化されそれぞれ補完し合う関係となっており、第2期の活動計画が31年までとなっていることから、第2期計画を通常5年のところ4年間に設定し、第3期の計画では地域福祉計画と地域福祉活動計画を一体的に策定し、地域福祉の向上を目指します。



他計画の計画機関との関係

計画名	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
地域福祉活動計画		← 第2期計画 →			
地域福祉計画	← 第2期計画 →				
四万十市こども・子育て支援事業計画	← 第1期計画 →				
障害者計画	← 第2期計画 →		← 第3期計画 →		
障害福祉計画	← 第4期計画 →			← 第5期計画 →	
高齢者福祉計画及び介護保険事業計画	← 第6期計画 →			← 第7期計画 →	
健康増進計画	← 第2期計画 →				



第2章

四万十市の現状と課題

第2章 四万十市の現状と課題

①四万十市の概要等

四万十市は、平成17年4月10日に旧中村市と旧西土佐村が合併し発足し、それに伴い社会福祉協議会も合併しました。高知県の西南部「幡多地域」（3市2町1村）のほぼ中央にあり、総面積632.29km²のまちです。

日本最後の清流として知られる四万十川は、西土佐地域（旧西土佐村）から中村地域（旧中村市）を太平洋に向かって南流しており、市街地や新興住宅地、海岸沿いの集落から中山間地域に集落が点在している地域です。

四万十市では、急激な超高齢社会の進展に伴い、平成27年4月1日現在の高齢化率は32.8%と4年間で3.8%伸びております。高齢化率を行政区単位でみると新興住宅地では2%、中山間地区では76.1%と大きく差があり、新興住宅地では住民同士のつながりが少なく、自治会に属さない世帯、高齢化率の高い地区では自治組織（区）の存続自体が危ぶまれる地区など様々な問題が出てきております。市街地で空洞化現象、独居世帯・高齢者のみの世帯の増加、家庭における介護力の低下、コミュニケーションの希薄化など、地域での支え合いの機能が弱まってきております。

また、経済的情勢や雇用環境の厳しさも相まって、生活に困窮する家庭等も増加傾向にあり、総合的な相談窓口の必要性など福祉に関するニーズは、ますます複雑・多様化しています。

こうした状況の中、地域の中で行政と住民、住民と関係機関、住民と住民の間で、役割分担し協力しながら、「地域の福祉力」を高めるために共通認識を持つことなどが今後の課題になっております。

※地域の状況 平成27年4月1日

人 口	35,021 人	高齢者数	11,487 人	高齢化率	32.8%	一人暮らし高齢者数	3,517 人
世帯数	16,387 世帯	介護保険 認定者数	2,104人	身障手帳 保持者数	1,859 人	療育手帳 保持者数	304 人
保育所	20ヶ所	幼稚園・ 認定こども園	1ヶ所	小学校	14校	中学校	11校
年 間 出生数	242 人	民生委員 児童委員 数	132名	主任児童 委員数	10名	—	—

②人口の状況（住民基本台帳各年 10月1日現在）

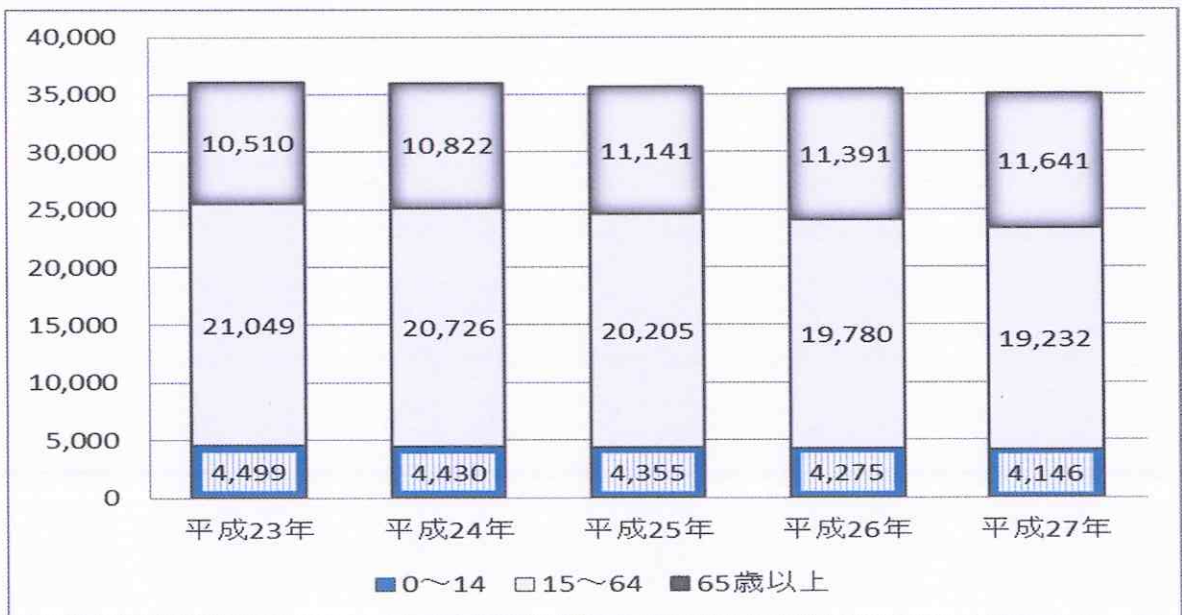
ア.総人口の推移状況

総人口の推移状況を見ると、平成23年の36,058人から平成27年には35,019人となっており、年々減少傾向にあります。



イ.年齢3区分人口の推移状況

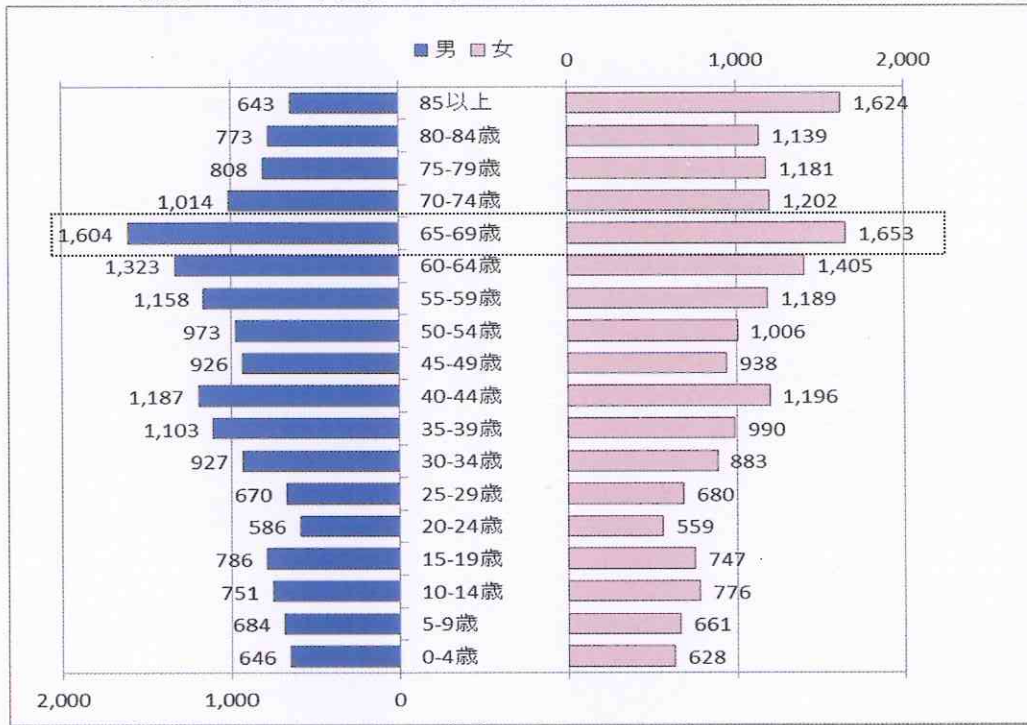
年齢3区分の人口の推移状況を見ると、0歳から14歳と15歳から64歳は減少傾向である一方、65歳以上の人口については、年々増加傾向にあります。



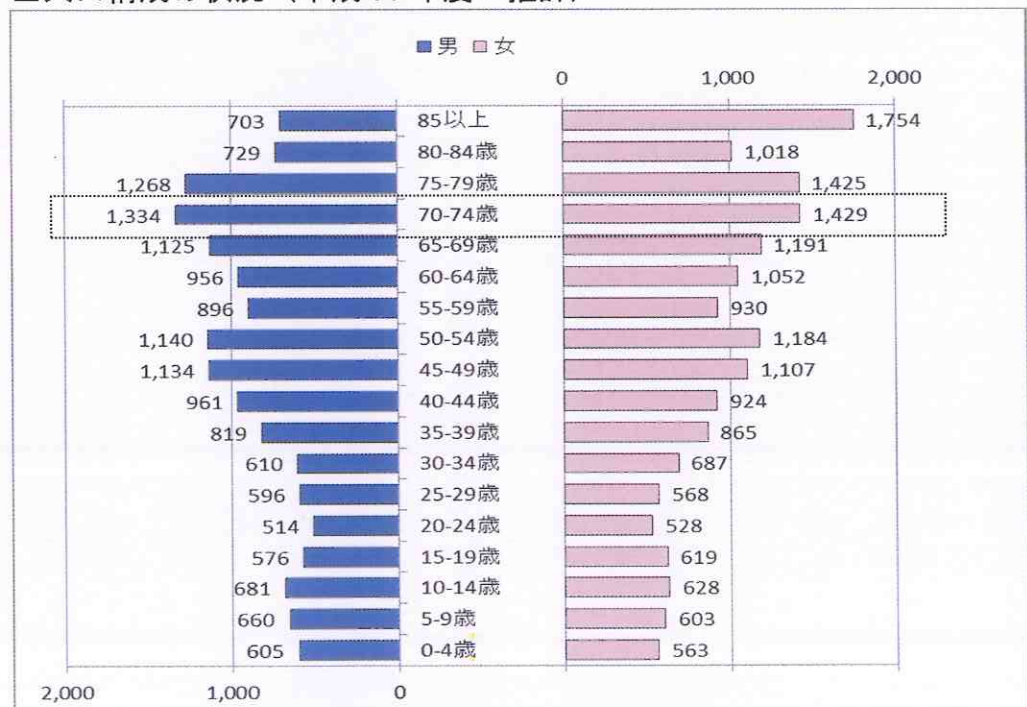
③人口構成

人口の構成状況をみると、平成27年10月では65歳から69歳の層が最も多くなっています。また、平成36年度の推計を見ると70歳から74歳の層が最も多く、特に85歳以上の女性の人数が各層の中で1番多くなっており、今後より少子高齢化が進行していくものと予測されます。

□人口構成の状況（平成27年10月）



□人口構成の状況（平成36年度 推計）



※住民基本台帳のデータを基にコーホート変化率法により算出

④世帯の状況

世帯数の推移状況をみると、平成23年の16,272世帯から平成27年には16,470世帯へ増加しています。また、1世帯当たりの推移状況をみると、平成23年の2.22人から2.13人へ減少しており、高齢者の世帯や一人暮らしなど、核家族化が進行していることがうかがえます。

また、地区別世帯数（割合）の推移状況をみると、具同地区が平成23年で3,101世帯（19.1%）から平成27年には3,281世帯（19.9%）と、他地区との推移より増加が著しく、前述の状況及び都市開発や住宅増加の要因がうかがえます。

□世帯数及び1世帯当たりの人口の推移状況



□地区別世帯状況の推移

		平成23年		平成24年		平成25年		平成26年		平成27年	
		世帯数	割合	世帯数	割合	世帯数	割合	世帯数	割合	世帯数	割合
市街地	中村地区	4,665	28.7%	4,719	28.7%	4,694	28.5%	4,695	28.5%	4,717	28.6%
	東山地区	2,009	12.3%	2,050	12.5%	2,070	12.6%	2,037	12.4%	2,036	12.4%
	具同地区	3,101	19.1%	3,187	19.4%	3,244	19.7%	3,265	19.8%	3,281	19.9%
周辺区域	東中筋地区	509	3.1%	507	3.1%	501	3.0%	499	3.0%	491	3.0%
	中筋地区	592	3.6%	591	3.6%	600	3.6%	608	3.7%	594	3.6%
	八束地区	682	4.2%	685	4.2%	677	4.1%	672	4.1%	665	4.0%
	下田地区	1,342	8.2%	1,342	8.2%	1,335	8.1%	1,327	8.0%	1,342	8.1%
	蕨岡地区	443	2.7%	446	2.7%	445	2.7%	485	2.9%	488	3.0%
	後川地区	765	4.7%	770	4.7%	775	4.7%	776	4.7%	762	4.6%
	大川筋地区	348	2.1%	347	2.1%	340	2.1%	335	2.0%	336	2.0%
	富山地区	421	2.6%	418	2.5%	409	2.5%	398	2.4%	390	2.4%
	津大地区	721	4.4%	723	4.4%	723	4.4%	717	4.3%	711	4.3%
	江川崎地区	674	4.1%	673	4.1%	675	4.1%	675	4.1%	657	4.0%
合計		16,272	100.0%	16,458	100.0%	16,488	100.0%	16,489	100.0%	16,470	100.0%



第3章

地域福祉活動計画策定過程

第3章 地域福祉活動計画策定過程

①地域福祉活動計画評価検討委員会

平成23年度から第1期の地域福祉活動計画が始まり、毎年進捗状況の確認や振返りを、評価検討委員会の中で行い、平成24年度の委員会では、活動目標の1部見直しを行い、平成25年度より見直された活動目標により計画を進行してきました。

その経過については、後述のとおりですが、過去4年間の経過を熟知している評価検討委員会の委員さんに、そのまま第2期の福祉活動計画の策定をお願いすることとなり、県社協の白石研二事務局次長に研修会をお願いし、事務局でたたき台を作りながら、策定委員さんの意見を聞き今回の第2期の計画が策定されました。

平成23年度 四万十市地域福祉活動計画評価検討委員会

- 日時 平成24年2月29日(水) 15:00~16:45
- 場所 四万十市社会福祉センター 会議室
- 参加者 26名(委員14名、福祉保健所2名、県社協3名、事務局7名)
- 内容
 - (1) 委員長、副委員長の互選について
委員長 中之所 克己
副委員長 坂本 登志行
 - (2) 評価・検討事項
 - A(重点目標 孤立しないつながりづくり)について
 - B(重点目標 健康で生きがいをもって参加できる地域づくり)について
 - C(重点目標 思いやりの心づくり・支えあいの人づくり)について

平成24年度 四万十市地域福祉活動計画評価検討委員会

- 日時 平成25年3月6日 13:30~15:15
- 場所 福祉センター 研修室Ⅱ
- 参加者 25名(委員14名、福祉保健所2名、県社協2名、事務局7名)

平成25年度 四万十市地域福祉活動計画評価検討委員会

- 日時 平成26年3月26日 13:30~14:50
- 場所 福祉センター 研修室Ⅱ
- 参加者 25名(委員12名、福祉保健所2名、県社協2名、事務局9名)

平成26年度 四万十市地域福祉活動計画評価検討委員会

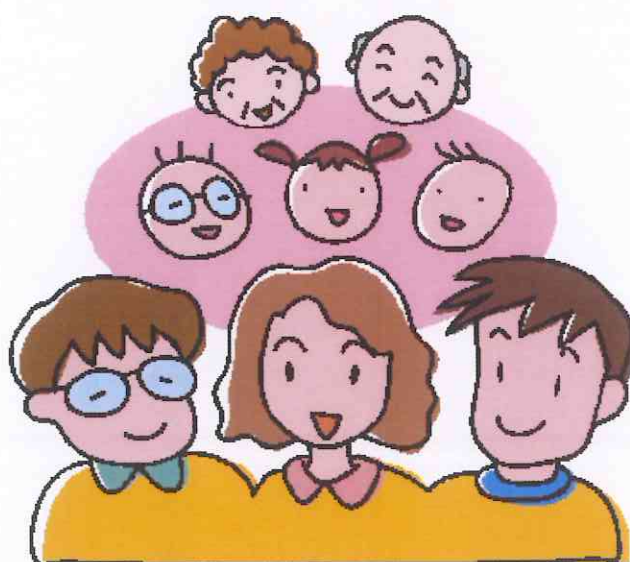
- 日時 27年3月18日 13:30~15:15
- 場所 福祉センター 研修室Ⅱ
- 参加者 25名(委員10名、福祉保健所2名、県社協1名、市包括1名、事務局8名)

平成 27 年度 四万十市地域福祉活動計画評価検討委員会
第 2 期地域福祉活動計画策定委員会

- 日時 28 年 1 月 29 日 10:00~12:10
- 場所 福祉センター 研修室Ⅱ
- 参加者 21 名 (委員 10 名、福祉保健所 1 名、県社協 1 名、市包括 1 名、事務局 8 名)

平成 27 年度 第 2 期四万十市地域福祉活動計画策定委員会

- 日時 28 年 2 月 29 日 13:30~ :
- 場所 福祉センター 研修室Ⅱ
- 参加者 17 名 (委員 8 名、福祉保健所 1 名、県社協 1 名、市包括 1 名、事務局 6 名)



実施目標①評価経過

四万十市地域福祉活動計画 評価検討シート（平成27年度）重点目標 孤立しないつながりづくり 活動目標 支えあえる地域 安心・安全の地域

進捗状況：3年定より進んでいる 2年定通り 1年定より遅れている 評価：3良好 2良 1要努力

A	平成28年度 評価1.9	平成25年度 評価2.2	平成26年度 評価2.2	平成27年度 評価2.0
<p>支えあいの意識の向上</p>	<p>年3回(7.11.3月)各戸に配布</p>	<p>年1回・回覧として配布 第2回四万十市地域健康福祉委員会代表者連絡会において、高知県立大学中きよむ教授の講演(参加者120名)</p>	<p>支えあいの地域づくり事業地区別意見交換会開催した。 (東富山、西富山・蔵岡、八東) 社協により、社協ホームページにて地域推進事業の取り組みを掲載した。 中山間地域の支え合い講演会開催 富山地区集会所 参加者66名 土佐清水市登輝地区 弘田 浩三氏</p>	<p>支えあいの意識向上に向け、旧町村単位で健康福祉委員会の意見交換を昨年年度未実施の8地区で行った。また、災害等に備え避難行動要支援者避難支援個別計画の策定に向け、行政と一緒に旧町村単位で説明会を行った。</p>
<p>出された意見</p>	<p>チラシだけで意識が向上するのかわからない。市民を対象としたアンケート調査を実施したらどうか。よく動いてくれていると思います。地区の取り組みを知ってもらうことがまず第一の目標なので、知ってそこから意識づけを行うことへ。配布回数を増す、内容をもっと分かりやすくする。もともと地域での支えあいの意識を強めること大切。25年度の取り組みとして地域推進事業の取り組みの紹介は、写真などをを用いて各地区の活動を紹介すると掲載された活動者の意識向上が期待できるので積極的にやってほしい。</p>	<p>今一つ不十分な感じが残る。情報発信を強化していく必要があるのではないかと。チラシだけではなく、社協のお知らせなども活用してはどうか。</p>	<p>高齢化が進む状況のなか、課題も刻々と変化していき、継続的な支援が必要。見守りについては、できる地区、団体、社協から充実させていく必要。全ての項目で〇〇を完了した。△△をしたなど行ったことが評価の資料としているが評価が難しい。取組した結果を受け止めていっている人が評価した結果に基づいて協議すべき。</p>	<p>移動人口(7パート等)が多い地域は工夫を要すると思う。 意見交換会や個別計画の策定に向け説明会を行ったことで支えあいの意識の何が変化したのかわからないので評価しにくい。 予定より進んでいる。</p>
<p>支えあいのマップの作成</p>	<p>平成24年度 評価1.4 大用地区で支えあいのマップづくりを取り組む 支えあいのマップづくりセミナー開催 3/30・31</p>	<p>平成25年度 評価2.5 往次郡地区を含む10ヶ所以上で マップづくりに取り組む 西土佐地区でもマップづくりに取り組む</p>	<p>平成26年度 評価1.9 地域に外向き、地区の要支援者の把握や見守りのやり方等を目的に安並団地地区・藤ノ川地区を含む5ヶ所で作ったマップ作りや一度作った支えあいのマップの見直しを行った。</p>	<p>平成27年度 評価1.5 支えあいの地域づくりをH27年4月から追加した津幡町の委員会で地区の現状を把握するため、マップを作成しそれにより見守りが行われている。マップ作成は今年度、2カ所のみの実施となった。 支えあいの意識の低い地区の取り組みへ介入を期待する。 H25の目標のように〇カ所で行った取り組みであれば2ヶ所を評価できる。「のみ」というニュアンスからすると1になるのか。</p>
<p>意見</p>	<p>3月の研修会の後、知識を持った人が増えれば、取り組む地区も増えるのでは。数置的なものだけでなく、つらくという思いでできた地区から波及させていくことが大切だと思ふ。情報がもっとほしい。1地区の取り組みということ、要努力「1」とする。健康福祉推進委員会の活動支援として25年度は取組み箇所を増やしてほしい。支えあいのマップを誰が必要としているか。住民が求めるマップの情報を掴むことが重要。</p>	<p>実際に役立つのは、個人情報が多くなってしまうのではないだろうか。何を目的の地図かによって、内容が変わるのでは？どわだけの地域が取り組んでいるのか、現状の資料の提示をお願いします。</p>	<p>地区を改めて見直すことで、知っているよいうで知らないことも再発見でき、住民同士が同じ方向を確認する手法としても有効であると思う。意見でも出たように、町の中でこそ必要なのではないかな。区長と民生委員との協力を得られれば取り組みやすい。</p>	<p>支えあいの意識の低い地区の取り組みへ介入を期待する。 H25の目標のように〇カ所で行った取り組みであれば2ヶ所を評価できる。「のみ」というニュアンスからすると1になるのか。</p>

進捗状況：3予定より進んでいる 2予定通り 1予定より遅れている 評価：3良好 2良 1要努力

項目	平成24年度 評価 1.1	平成25年度 評価 1.1	平成26年度 評価 1.8	平成27年度 評価 1.8
各種イベントの発信	調査 未実施	広報紙による周知	今までの広報紙に加え、今年度よりホームページを刷新し導入し周知につとめた。西土佐地域では、イベント情報発信の依頼に基づき、参加の呼びかけに協力した。	健康福祉委員会の行事や西土佐地区のイベント情報などを、依頼に応じて情報を発信し、参加の呼びかけに協力した。
意見	未実施の為、新聞折り込みだけでなく、広報紙と一緒に配布した方がもっとたくさんの方の目に止まると思います。	広報紙による周知だけでなく、可能な範囲でできるだけ多くの方に見てもらえるようにしたい。	計画からのけるので良いかと思う。必要性を感じない。次期計画に反映云々は必要か（現計画の評価なので）。	改めてらしを作るなどは必要ないと思うが、広報誌の一部にとりか地区放送とか発信の必要性はあると思う。
項目	平成24年度 評価 2.2	平成25年度 評価 2.1	平成26年度 評価 2.5	平成27年度 評価 2.3
健康福祉地域推進事業の設立及び支援	健康・福祉地域推進事業の支え合い事業の支援及び設立促進実施地区委員立上げ・その他教力所立上げ準備中。	角崎含む7地区の委員会設立健康づくり、支え合いの地域づくりも10地区以上支援し、実施となる。	未設立の地域に訪問し、不破上町地区を含む3地区委員会設立や新たに追加事業の実施にあたり支援を行った。また、介護予防事業は、勉強会やレクリエーション等に運営に協力した。	中村・西土佐地域で、委員会が1カ所づつ代表者の不在等により休止となったが、中村の具同地区で2カ所委員会が設立された。また、中村の九樹地区でも、H27年4月から5か月間休止していたが、介入により9月より再スタートした。
意見	事業の設立や支援によって、地域にどのような変化が起こったのかを知りたい。設立が困難な地区が残っているが、他地区の具体的な取り組みを住民から発信できる方法や場を市民全体に提供（福祉健康まつり）等。1年間で87地区が設立でき、3本柱である事業の難しい支え合い事業（関係性が大切）を50%とやっている。努力して支援されている。組織化ももちろん重要であるが、組織の活動支援も非常に重要。地域課題に合った独自の活動が各地区でできるように、組織の世話人と話し合う機会をしっかりとつくりたい。地域のふれあいを活用した、認知症サポーター養成講座や成年後見制度（にからためて虐待の勉強）など、地域での見守り体制のあり方など、問題提起できる勉強会ができれば良いと思います。包括をご利用下さい。設立が困難な地区が残っているが、他地区の具体的な取り組みを住民から発信できる方法や場を市民全体に提供（福祉健康まつり）等。努力して支援されている。少ない職員数で十分な支援回数だと感じます。今後、直接支援だけでなく、自立を見据えた人材育成（リーダー養成等）も検討してほしい。職員が出向かなくても住民主体できるように。	立ち上げて取り組んでいるところの事業内容の充実支援はもとより、現在取り組みができていないところの支援を引き続きお願いします。	支えあいの地域づくり事業がH24に比べ40近く増加しているのは素晴らしい。委員会によつて内容にバラつきがあるようにも感じられる。見守りの必要な人に担当をつけて（おそらく社協の担当を指していると思うが）市全体は無理、社協はそういう仕組みを地域につくことに重点を置いていると管えてもらいたいが、黙ってしまいました。できないことではできないと言ったほうがよい。	引き続き設立支援を。今後も協力を進めて下さい。2のマップと同じ。何か所立ちあがったでは評価できない。

実施目標②評価経過

四万十市地域福祉活動計画 評価検討シート（平成27年度） **重点目標** 健康で生きがいを持って参加できる地域づくり **活動目標** 交流の場 地域資源を活かした活動

進捗状況：3予定より進んでいる 2予定通り 1予定より遅れている 評価：3良好 2良 1要努力

項目	平成24年度 評価 1.1	平成25年度 評価 1.5	平成26年度 評価 1.8	平成27年度 評価 1.1
B				
1	<p>あったかふれあいセンターの充実に支障。</p> <p>教員も必要だが、実際に行なった支援内容とその結果が知りたい。コーディネーターとあったかふれあいの連携が取れている。職員・コーディネーターの密な連携が取れているのか。一番必要なこと。あったかふれあいセンターの意識改革が必要。前進している。</p>	<p>あったかふれあいセンターのコーディネーターとして支援。</p> <p>コーディネーター業務派遣が終了となっているが、これから地域福祉にどう取り組むというのか明記してほしい。昨年の資料には、活動実績が添付されていたが、今年度の資料がないので頭詰った成果(実績表)を出してもいい。社協のかかわりがなくなることですが、今後この項目はどうなりますか。平成26年度以降、あったかふれあいセンターとの関係をどう作っていくのか。</p>	<p>3か所のセンターと連携を図り、必要に応じて協同して、個別対応や地域の課題解決を行った他、介護予防教室や学習会等に協力した。</p> <p>社協からコーディネーター派遣が終了したが、引き続きあったかふれあいが取れていると思います。コーディネーターは社協ではなくなくなりましたが、引き続き連携をお願いしたい。</p>	<p>3か所のセンターと連携を図り、運営推進会議や検討委員会等に参加。アルメリアについては、フードバンク事業で食料等の提供を行っている。</p> <p>制度のすまを埋める事業として必要性高い。活動の継続を。会に参加することが充実につながるか？</p>
2	<p>調査 未実施。</p> <p>社協職員が事業担当制ではなく、地区担当制になれば地区の情報が得やすくなり実施しやすいのでは？地区を小単位のくくって取り組んでみてもいいか。必要性が低いから取り組まなかつたという事であれば目的・目標・手法を再度確認し、計画項目からの削除も含めて検討したらどうか。</p>	<p>平成25年度 評価 2.4</p> <p>支え合いの地域づくり事業への関わりと地区健康福祉委員会の役員との良好な関係。</p> <p>健康福祉委員会のできている地域には、ある程度の情報発信はできているが、組織ができていないところへの対応をどうするか。</p>	<p>平成26年度 評価 1.4</p> <p>西土佐地域では、地域に出向きインフォーマルな資源の洗い出しをした。</p> <p>西土佐のようなインフォーマル資源の発掘を中村地区でもしてはどうか。</p>	<p>平成27年度 評価 1.6</p> <p>生活支援コーディネーターに依頼し、社会資源マップを作成段階である。</p> <p>よく調べていると思う。さらに充実、活用を期待する。内容については事業者努力の部分とは思うが、地域のニーズが事業者には届くと良いですね。社会資源マップの作成は大切だと思う。が、生活支援コーディネーターを依頼されなかつたから実施できていないことなのか。</p>
3	<p>調査 未実施</p> <p>必要性が低いから取り組まなかつたという事であれば目的・目標・手法を再度確認し、計画項目からの削除も含めて検討したらどうか。</p>	<p>平成25年度 評価 1.5</p> <p>あったかふれあいセンター等の情報の発信</p> <p>古津第2団地では、県展作家がいるので文化的な交流として、下書きをしたものをもとに絵画教室を4～5年前から開いている。この計画当初には、市内3カ所程度のモデル地区を設定して進めていく方向になっていたが、新たな交流の場が困難という事で、あったかふれあいセンター等の活用になっているが、具体的に活動している古津第2団地に依頼してはどうか。あったかふれあいセンター等を活用するであれば、経過の説明があればよかつた。</p>	<p>平成26年度 評価 1.8</p> <p>高齢者と障害児との和太鼓交流会を企画し、わかふじ寮の子供たちとの交流を深めた。また、文化協会の行う文化祭等に社協の持つ地域の情報等を提供した。</p> <p>今後も毎年評価ということなら、評価しやすい項目を設定すればどうか。</p>	<p>平成27年度 評価 1.1</p> <p>未実施</p> <p>他機関とは？どこを考えているのか。集会所等が無い地域の集まる場の確保に知恵をしよう。</p>

進捗状況：3 予定より進んでいる 2 予定通り 1 予定より遅れている 評価：3 良好 2 良 1 要努力

B	項目	平成24年度 評価1.6	平成25年度 評価1.3	平成26年度 評価1.3	平成27年度
4	学校の空き教室の有効活用	各小中学校に空き教室の調査及び教育委員会に休校等の状況調査 調査をし、整理できている。有効活用を是非して行けるよう支援願う。地域で”何かしたい”という思いが盛り上がり、空き教室の活用は？	学校・関係機関との協議 学校の空き教室利用については、社協と学校との協議ではまとまらない。市・教育委員会・社協の三者でしっかりと協議し、教育委員会が方針決定すれば、学校長が変わっても継続性が生まれるので、その取り組みを進めてほしい。	未実施 あくまでも手法なので、ニーズを明確にすることが大事。現状では使用不可はやむを得ないので（すみません評価ができません）。B4とB5合せては？これは本場に難しい課題、削除の方がよい。教育委員会に振ったら良いんですけどというのは主体性なさすぎ。	平成26年度の評価検討委員会の中で協議の結果、項目を削除することとなっているため、未実施。
	意見				
5	集会施設確保の検討	市街地のみ、集会施設を調査	市街地の集会施設の確保	健康福祉地域推進事業の介護予防事業で「二条の里」を開放し、集える場の提供を行った。	平成26年度の評価検討委員会の中で協議の結果、項目を削除することとなっているため、未実施。
	意見	調査結果のわかる資料があればよい。調査をし、整理できている。もっと検討の必要性。地域で”何かしたい”という思いが盛り上がり、空き教室の活用は？	この項目については、現状では新たな希望がなかったのに特に意見はありませんでした。		
6	買い物バスの運行の検討	行街の訪問調査及び日々の業務を通して地域の買い物ニーズの把握	平成25年度 評価1.7 支え合いの地域づくり事業における生活支援体制	平成26年度 評価2.1 奥島内や藤ノ川を対象に、地域住民が集まる場所（51世帯）また、健康福祉委員会と支え合いの地域づくり事業を実施している区を対象に、生活支援（買い物）を行っている地域の抽出を行った。支え合い実施地区 77地区 生活支援実施地区 63地区 買い物支援実施地区 24地区	平成27年度 評価1.6 買い物バスの検討には至っていないが、地域に商店のない地区では、近隣の商店が行っている行商（移動販売）業者の詳細な情報等の把握と移送サービスの一覧を作成した。
	意見	調査結果のわかる資料があればよい。調査をし、整理できている。もっと行政が行商先を応援・支援する力があるのでは、そこに力を入れると良いのでは。地域の支え合い事業を広めることで可能となるのでは？（市の方向性として）。行商空白地の把握など丁寧に取り組みが進められている。現状で生活できていない訳ではないので緊急性は低い継続して取組みを進めてほしい（あつたか等でのサービス開発を見据えて）。行商型よりも連れ出し型の方が閉じこもり対策にもなるので、移送サービスが充実すれば…。	地域によっては、健康福祉委員会やデマンドバスが好評で通院や買い物等にうまく活用されている。取り組んでいるところがあるようなので、アンケートなどにより状況調査をしてはどうか。	内容については事業者努力の部分とは思うが、地域の「ニーズ」が事業者にくくと良いですね。 基本は行政の業務と思う。	

実施目標③評価経過

四万十市地域福祉活動計画 評価検討シート (平成 27 年度) **重点目標** 思いやりの心づくり・支えあいの人づくり **活動目標** 人材育成及び組織づくり 福祉教育の推進

進捗状況：3 予定より進んでいる 2 予定通り 1 予定より遅れている 評価：3 良好 2 良 1 要努力

項目	平成 24 年度 評価 2.0	平成 25 年度 評価 2.4	平成 26 年度 評価 2.0	平成 27 年度 進捗 (2) 評価 ()
大人の学びの場の提供	地区健康福祉委員会とは別に地域内にはいり勉強会を開催。17ヶ所 19 回 第 6 回ふくし健康まつり開催 「南海大地震」をテーマとしての講演会 (約 150 名の参加)	西土佐地域で、集会所やオレンジハブハウス等で勉強会を開催 (13 回延べ 201 名参加) 第 7 回ふくし健康まつり開催 大野内科 小笠原先生の講演 (参加者 300 名) 第 34 回西土佐地域社会福祉大会の開催 障害を持って生きることテーマに上田真弓さんの講演 (参加者 約 450 名)	医療・福祉の専門職で組織されるええところネットの学習会の紹介を行った他、様々な講師の紹介を行い、充実した学習会を地区健康福祉委員会を中心に情報提供した。 第 35 回西土佐地域社会福祉大会で「共に輝いて生きる」をテーマに講演会 (300 名参加)	各団体等の依頼により、可能な範囲で学びの場の提供を行った。
意見	談話室等とのサビ分け、対象者 (若者・子育て世代) を絞る必要がある。活発に実施されている。中学生の災害ボランティアの体験は良かったと思う。前回の良い運動会だったので今回も行なってほしい。社協の職員だけではなく外から講師を呼んで積極的に、若い世代への発信が重要。内容・回数ともに十分だと思えます。介護予防の場を作ることが良いと思う。介護予防は若い頃からの意識付けが重要です。	具体的な今後の方向性が見えてこない。災害に関する研修としてはどうだろうか。参加された方々の反応はどうだったか、アンケートを取ってはどうか。	中村地域での実施が今後の課題。福祉大会などの大きな場でなく、地域での小さな場の学習会をお願いします。難しい課題だと思いますが中村地区の「ふくし健康まつり」を期待します。	※ 資料を参照ください 実施目標別資料 6 号
テーマ別の継続的な学習への取り組み	平成 24 年度 評価 1.4 テーマ別プログラム作成等については未実施 小中学校からの依頼 (各種体験学習) のみで対応	平成 25 年度 評価 1.6 平成 24 年度と同様	平成 26 年度 評価 2.2 キャリア教育支援事業として高校生向けのプログラムを作成し実施した。 中村高校西土佐分校 1,2 年 22 名	平成 27 年度 進捗 (2) 評価 () 手話講座や傾聴講座・災害ボラ等・キャリア教育等幅広く、テーマ別の学習に取り組んだ。
意見	信頼関係が築くことができていることは大きな一歩だと思ふ。学校との付き合い方は非常に難しいと思ふ。教育委員会にも働きかけて、福祉教育の体系化に取り組んでほしい。次年度の計画は 12 月～1 月には必要らしいです。早目からの働きかけが必要	内容的に昨年と変わっていない。	介護、高齢者体験、車椅子体験で、高齢者や障害者が苦勞してかわいそうな人と思われぬような工夫が必要だと思ふ。今後も積極的に前に進めてほしい。	※ 資料を参照ください 実施目標別資料 6 号

進捗状況：3予定より進んでいる 2予定通り 1予定より遅れている 評価：3良好 2良 1要努力

C	項目	平成24年度 評価1.6	平成25年度 評価2.2	平成26年度 評価2.3	平成27年度 評価2.0
	当事者団体・家族会等の支援	認知症家族の会に引き続き、今年度は精神障害者虹の会の定例会や社協だよりで紹介を行う。	認知症家族の会や精神障害者虹の会の定例会に参加するとともに、家族の方に活動への参加を呼びかける。	前年度と同様に認知症の家族の会や精神障害者「虹の会」の定例会に参加した。また、認知症の方の家族を家族会につなげ、交流会の参加を呼びかけた他各種制度の情報提供を行った。	前年度と同様に認知症の会と家族の会「たんぼぼの会」・精神障害者「虹の会」・四万十なかまの会の会等に参加した。また、会等で他各種制度や相談機関等の情報提供を行った。
3	意見	団体の表態把握に努めて欲しい。明確な役割がなくとも、団体の会にちやんと顔を出して、困ったときに相談してもらえらる関係が作れれば現状は十分ではないか。活動を知らずに抱え込んでいる人もまだまだいると思うので、発見した時の紹介など、地道な活動が活性化につながると思います。日帰り旅行や一泊旅行など、介護者だけとか要介護者も一緒にとってきてほしいですね。介護者が一緒の場合はボランティアが必要ですね。	西土佐では、社協協力のもと場所の提供や講師の交渉をしてもらい、2ヶ月に1回 SSI（精神障害者の方の社会生活技能訓練）を実施し、メンバーの生活はもろろんのことながら、職員の研修にもなっている。場所を貸して勉強してもらい、何かあったときや困ったときに声をかけてもらえる関係性を持つだけでいいのではないかとと思う。	---	参加することと支援とは違うと思うが、たんぼぼの会の松岡さんの意見等より何らかの支援につながっていると判断しました。
	項目	平成24年度 評価1.1	平成25年度 評価1.9	平成26年度 評価1.9	平成27年度 評価1.9
	ボランティアセンターの充実	項目見直しによる新規	手話奉仕員養成講座（入門課程）の開催（修了者15名） 災害ボランティアセンター中核スタッフ実践講座参加（職員2名）	災害ボラセン関係の研修を企画・参加した他、災害時初期行動計画の策定を進めている。また、団体、個人とともに社協に登録しボランティアを派遣した。	ボランティア連絡協議会や各団体、個人ボランティアとの連携を図り、ボランティアの派遣を行っている。テーマ別の学習でも上げているが、手話・傾聴・災害ボラ等の講座等も行った。
4	意見	ボラセンの活用ができると良い。ボランティアセンターの充実への変更に賛成です。	待っているだけでなく、地域活動の中で人材の発掘を。災害時はもちろんのこと平常時のボランティアのマッチングに関して、社協のマッチング機能を充実していく必要がある。若者などを含めボランティア登録をしているが、災害時に派遣できるような組織体制が取れているものか。ボランティアセンターのあるべき姿は、市町村レベルのボランティアニーズ、ボランティア情報を集めて、多くの人に発信していくことが重要である。	次年度の方向性を聞き、継続で、中村地区での取り組みがほしい。	ボラセンがボランティアをためて自分が必要なくなった時に利用できるポイント券制度。健康福祉委員会が地区、もしくは市との協議が必要だが、市内の店の商品券と交換できる制度とか・・・何かポイントのボラセンでなく（それも必要ですが）、自分達の老後の安心につながるようなボラセンができると思う。充実？かどうかが評価不能。

年度別評価 平成24年度評価結果

四万十市地域福祉活動計画 評価検討シート(平成24年度)

平成25年2月6日

項目		評価(点数)															合計	意見
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
1	意識向上	3	2	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	19	チャラリだけでは、市民を対象としたアンケート調査を実施したかどうか、よく動いてくれていると思います。地区の取り組みを知ってもらうことがまず第一の目標なので、知るところから意識づけを行うことへ、配布回数を増やす、内容を分けて紹介し、写真などを用いて各地区の活動を紹介しますと掲載された活動者の意識向上が期待できるので積極的にやってみてほしい。
2	資源マップの作成(支え合いマップの作成)	3	1	2	1	2	3	2	1	1	1	2	1	1	1	1	20	3月の研修から支えあわせさせていくことが大切だと思う。情報がなくても、要努力(1)として、健康福祉推進委員の活動支援として25年度は取組み場所を指定してほしい。支え合いマップを誰が必要としているか。住民が求めるマップの情報を集めることが重要。
3	各種イベントの開催	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	20	先実施の為、新聞折り込みだけでなく、広報誌と一緒に配布した方がもっとたくさんの人の目に止まると思っています。
4	地区福祉協会の設立及び支援(健康福祉地地域推進事業の設立及び支援)	2	2	2	2	3	3	3	2	3	2	2	2	2	2	2	39	事業の設立や支援によって、地域にどのような変化が起こったのかを知りたい。設立が困難な地区が疎かれないが、他地区の具体的な取り組みを住民から発信できる方法や場を市民全体に提供(福祉健康まつり)等、1年間で87地区が設立でき、3年柱である事業の難しい支え合い事業(困難性が大切)を50%とやっています。努力して支援されている。組織化ももちろん重要であるが、組織の活動支援も非常に重要、地域課題に応じた独自の活動が各地区で行われている。活動の進捗も進捗をよりよく見据えつつ進めてほしい。地域のふらふらあいを活用した、認知症サポーター養成講座や成年後見制度(にからめて虐待の対応)など、地域での見守り体制のあり方など、問題提起できる勉強会ができればいいと思います。包括をご利用下さい。
5	福祉委員等の設置の検討(健康福祉地)	2	2	2	2	2	3	3	2	3	2	2	2	2	3	3	33	設立が困難な地区が残されているが、他地区の具体的な取り組みを住民から発信できる方法や場を市民全体に提供(福祉健康まつり)等、努力して支援されている。
6	福祉サポーター等の検討(健康福祉地)	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	25	少ない職員数で十分な支援回数だと感じます。今後、直接支援だけでなく、自立を見据えた人材育成(リーダー養成等)も検討していただきたい。職員が出なくても住民主体でできるような。
7	ふらふらあいの活用(健康福祉地)	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	36	数値も必要だが、実際にいった支援内容とその結果が知りたい。コーディネートとあつたふらふらあいの連携が取れている。職員、コーディネーターの密な連携が取れている。コーディネートとあつたふらふらあいの連携が取れている。職員、コーディネーターの密な連携が取れている。コーディネートとあつたふらふらあいの連携が取れている。職員、コーディネーターの密な連携が取れている。
8	あつたふらふらあいの活用(健康福祉地)	2	2	2	1	2	2	2	3	3	2	2	2	2	2	2	35	コーディネートとあつたふらふらあいの連携が取れている。職員、コーディネーターの密な連携が取れている。コーディネートとあつたふらふらあいの連携が取れている。職員、コーディネーターの密な連携が取れている。
9	つどいの場情報の確保	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	18	社協職員が密な連携を取れている。あつたふらふらあいの連携が取れている。あつたふらふらあいの連携が取れている。あつたふらふらあいの連携が取れている。
10	地域資源情報の共有及び発信	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	21	社協職員が密な連携を取れている。あつたふらふらあいの連携が取れている。あつたふらふらあいの連携が取れている。あつたふらふらあいの連携が取れている。
11	地域資源情報の共有及び発信	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	社協職員が密な連携を取れている。あつたふらふらあいの連携が取れている。あつたふらふらあいの連携が取れている。あつたふらふらあいの連携が取れている。
12	文化的な交流の場づくり	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	20	社協職員が密な連携を取れている。あつたふらふらあいの連携が取れている。あつたふらふらあいの連携が取れている。あつたふらふらあいの連携が取れている。
13	学校の空き教室の有効活用	2	2	1	2	1	2	2	2	1	2	2	1	1	1	1	28	調査をし、整理できている。有効活用を是非して行けるよう支援願う。地域で「何かしたい」という思いが盛り上がりつつある有効なアイデアだと思います。調査をし、整理できている。有効活用を是非して行けるよう支援願う。地域で「何かしたい」という思いが盛り上がりつつある有効なアイデアだと思います。
14	集会所の確保の検討	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	30	調査をし、整理できている。有効活用を是非して行けるよう支援願う。地域で「何かしたい」という思いが盛り上がりつつある有効なアイデアだと思います。
15	買い物バスの運行の検討	2	2	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	33	調査をし、整理できている。有効活用を是非して行けるよう支援願う。地域で「何かしたい」という思いが盛り上がりつつある有効なアイデアだと思います。
16	遊休農地活用の検討	2	2	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	27	調査をし、整理できている。有効活用を是非して行けるよう支援願う。地域で「何かしたい」という思いが盛り上がりつつある有効なアイデアだと思います。
17	大人の学びの場の提供	1	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	36	調査をし、整理できている。有効活用を是非して行けるよう支援願う。地域で「何かしたい」という思いが盛り上がりつつある有効なアイデアだと思います。
18	テーマ別の継続的な学習への取り組み	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	25	調査をし、整理できている。有効活用を是非して行けるよう支援願う。地域で「何かしたい」という思いが盛り上がりつつある有効なアイデアだと思います。
19	地域人材の活用	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	18	調査をし、整理できている。有効活用を是非して行けるよう支援願う。地域で「何かしたい」という思いが盛り上がりつつある有効なアイデアだと思います。
20	当事者団体・家族会等の支援	1	1	3	1	1	1	3	1	2	1	2	2	1	3	1	29	調査をし、整理できている。有効活用を是非して行けるよう支援願う。地域で「何かしたい」という思いが盛り上がりつつある有効なアイデアだと思います。
21	人材バンク・組織バンクの設立	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	19	調査をし、整理できている。有効活用を是非して行けるよう支援願う。地域で「何かしたい」という思いが盛り上がりつつある有効なアイデアだと思います。

・平成25年度評価結果

四万十市地域福祉活動計画 評価検討シート(平成25年度)

平成28年3月26日
評価(点数) : 3 良好 2 良 1 要努力

項目	評価(点数)																合計	平均	意見
	2	3	2	3	2	2	3	2	2	2	1.5	2	2	3	2	2			
A	1 支えあい意識の向上	2	3	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	33	2.2	今一つ不十分な感じが残る。情報発信を強化していく必要があるのではないかと。チラシだけではなく、社協のお知らせなども活用してはどうか。
	2 支えあいマップの作成	2	3	2	3	2	2	2	2	3	3	3	2	3	2	3	38	2.5	実際に役立つのは、個人情報が多くなってしまおうのではないかと。何を目的の地図かによって、内容が変わるのでは? どれだけの地域が取り組んでいるのか、現状の資料の提示をお願いします。
	3 各種イベントの発信	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	17	1.1	広報紙による周知だけでなく、可能な範囲でできるだけ多くの方に届くようにしたいところの支援を引き続きお願いします。立ち上げて取り組んでいるところの事業内容の充実支援はもとより、現在取り組みができていないところの支援をよろしくお願いいたします。
	4 健康福祉委員会の設立及び支援	2	3	2	3	2	1	2	2	3	2	0	3	2.5	2	2	32	2.1	
B	1 あったかふれあいセンターの充実	2	3	3	2	2	1	1	3	2	3	2	2.5	3	3	35	2.3	コーディネーター業務派遣が終了となっているが、これから地域福祉にどう取り組むかについて、昨年同様、活動実績が添付されていたが、今年度の資料がないので補填した成果(実績)を出していただきたい。社協のかかわりがなくなることですが、今後この項目はどうなりますか。平成28年度以降、あったかふれあいセンターとの関係をどう作っていくのか。	
	2 地域資源情報の発信及び発信	2	3	3	3	2	2	2	3	3	2	1	2.5	3	2	37	2.4	健康福祉委員会のできている地域には、ある程度の情報発信はできているが、組織ができていないところへの対応をどうするのか。	
	3 文化的な交流の場づくり	1	2	2	2	1	1	1	1	3	1	2	1	2	1	23	1.5	古津賀2団体では、県展作家がいるので文化的な交流として、下書きをしたものをもとに絵画教室を4~5年前から開いている。この計画当初には、市内3カ所程度のモデル地区を設定して進めていく方向になっていたが、新たな交流の場が困難ということで、あったかふれあいセンター等の活用になっているが、具体的に活動している古津賀など地区に依頼してはどうか。あったかふれあいセンター等を活用するのであれば、経過の説明があればよかったです。	
	4 学校の空き教室の有効活用	1	2	2	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	20	1.3	学校の空き教室利用については、社協と学校との協議ではまだままならない。市・教育委員会・社協の三者でしっかりと協議して、教育委員会が方針決定すれば、学校長が変わっても継続性が生まれるので、その取り組みを進めてほしい。	
	5 集会所・健康福祉委員会の検討	1	3	1	1	2	1	1	1	3	1	1	1	1	1	20	1.3	この項目については、現状では新たな希望がなかった中で特に意見はありませんでした。	
	6 買い物バスの運行の検討	2	1	2	2	1	2	2	1	2	3	2	1	1.5	2	0	28	1.7	地域によっては、健康福祉委員会で取り組んでいるところがあるようなので、アンケートなどにより状況調査してはどうか。
C	1 大人の学びの場の提供	2	3	3	2	2	3	2	2	3	2	3	2	2	2	2	38	2.4	具体的な今後の方向性が見えてこない。災害に関する研修をしてはどうだろうか。参加された方の反応はどうだったか、アンケートを取ってはどうか。
	2 テーマ別の継続的な学習への取り組み	1	2	2	1	2	2	1	1	3	1	2	1	1	2	24	1.6	内容的に昨年と変わっていない。	
	3 当事者団体・家族会等の支援	2	3	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	2	2	33	2.2	西土佐では、社協協力のもと場所の提供や講師の交渉をもらい、2ヶ月に1回SST(精神障害者の方の社会生活技能訓練)を実施し、メンバーの生活はもちろんならぬことながら、職員研修にもなっている。場所を貸して勉強してもらい、何かあったときや困ったときに声をかけてもらえる関係性を持たせていいのではないかとと思う。
	4 ポランティアセンターの充実	2	3	1	2	2	1	1	3	2	2	2	1	2	2	2	28	1.9	待っているだけでなく、地域活動の中で人材の発掘を。災害時はもちろんなこと平常時のボランティアのマッチングに関して、社協のマッチング機能を充実していく必要がある。若者などを始めボランティア登録しているが、災害時に派遣できるような組織体制が取れているものか。ボランティアセンターのあるべき姿は、市町村レベルのボランティアニーズ、ボランティア情報を集めて、多くの人に発信していくことが重要である。

- ※ 全体として、課題が抽象的で憶測のような内容のものもある。難しい作業と思うが課題を明確にしてこそ、次に進めるものなので具体的に必要がある。
- ※ 実施目標①は全体的には、予定より前進している。実施目標②は、予定どおり進んでいると思う。実施目標③次年度前進を願う。
- ※ 具体的な目標(数値等)が示されると評価できるのではないかと。
- ※ 関係の資料が少なく評価することが難しい。来年度は、評価がしやすいように資料等を準備してください。
- ※ 資料に関して、依頼があれば可能な範囲で資料の提供に協力します。

・平成26年度評価結果

四万十市地域福祉活動計画 評価検討シート（平成26年度）

評価（点数）： 3 良好 2 良 1 要努力

平成27年3月18日

項目	評価（点数）										合計	平均	意見		
	2	2	2	3	1	2	2	2	2	2					
A	1 支えあい意識の向上	2	2	2	3	3	1	3	2	2	2	2	28	2.2	高齢化が進む状況のなか、課題も刻々と変化していく。継続的な支援が必要。見守りについては、できる地区、団体、社協から充実させていく必要。全ての項目で〇〇をした、△△をしたなど行ったことが評価の資料としているが評価が難しい。取組した結果を受け止めている人が評価した結果に基づいて協議すべき。
	2 支えあいマップの作成	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	25	1.9	地区を改めて見直すことで、知っているようでも知らないことも再発見でき、住民同士が同じ方向を確認する手法としてとても有効であると思う。意見でも出たように、町の中でこそ必要なのではないかな。区長と民生委員との協力を得られれば取り組みやすい。
	3 各種イベントの発信	2	2	3	1	2	1	2	1	2	2	2	21.5	1.8	計画からのけるので良いかと思う。必要性を感じない。時期計画に反映云々は必要か（期計画の評価なので）。
	4 健康福祉地域推進事業の設立及び支援	3	3	3	2	3	3	2	3	2	2	3	33	2.5	1)と同じ。支えあいの地域づくり事業がH24に比べ40近く増加しているのは素晴らしい。委員会によって内容にバラつきがあるようにも感じられる。見守りの必要の人に担当をつけて（おそらく社協の担当を指していたと思うが）市全体は無理。社協はそういう仕組みを地域につくことに重点を置いていると答えてもらいたいが、察していました。できないことではないと書ったほうがよい。
B	1 あったかふれあいセンターの充実	2	2	2	2	3	2	3	2	2	3	2	30	2.3	社協からコーディネーター派遣が終了したが、引き続きあったかかと連携が取れていると思います。コーディネーターは社協ではなくなくなったが、引き続き連携をお願いしたい。
	2 地域資源情報の発信及び発信	1	2	2	1	1	2	1	1	1	2	2	17	1.4	西土佐のようなインフォマーシャル資源の発信を中村地区でもしてはどうか。
	3 文化的な交流の場づくり	1	2	3	1	2	2	1	2	1	2	3	22	1.8	今後も毎年評価ということなら、評価しやすい項目を設定すればどうか。
C	4 学校の空き教室の有効活用	1	2	1	1	1	1	2	1	2	1	2	12	1.3	あくまでも手法なので、ニーズを明確にすることが大事。現状では使用不可はやむを得ないのでは（すみません評価ができません）。B4とB5合せては？これは本当に難しい課題、削除の方がよい。教育委員会に振つたら良いんではないかというのには主観性なさすぎ。
	5 集施設確保の検討	1	2	2	1	2	2	2	1	2	1	2	19	1.6	資料が総括バラバラで見にくい。
C	6 買い物バスの運行の検討	2	2	3	1	2	2	2	2	2	2	3	27	2.1	あったかの活動と絡めて社協活動の整理をされていたのが良かった。
	1 大人の学びの場の提供	2	3	3	2	1	2	3	2	2	1	2	26.5	2.0	中村地域での実施が今後の課題。福祉大会などの大きな場でなく、地域での小さな場の学習会をお願いします。難しい課題だと思いますが中村地区の「ふくし健康まつり」を期待します。
	2 テーマ別の継続的な学習への取り組み	3	2	3	2	2	3	3	1	2	2	2	29	2.2	介護、高齢者体験、車椅子体験、高齢者や障害者が苦勞がかわいそうな人と思われたいような工夫が必要だと思えます。
	3 当番者団体・家族会等の支援	2	2	2	3	3	2	3	2	2	2	3	28.5	2.3	
4 ボランティアセンターの充実	2	3	3	1	2	2	2	2	1	2	1	2	25	1.9	次年度の方向性を聞き、継続で。中村地区での取り組みがほしい。

・平成27年度評価結果

四万十市地域福祉活動計画 評価検討シート（平成27年度）

評価値（点数）： 3 良好 2 良 1 要努力

平成28年2月23日

項目	評価（点数）							合計	平均	意見	
	2	2	2	3	3	1	2				
A	1	2	2	2	3	3	1	2	16	2.0	・移動人口（アポイント等）が多い地域は工夫を要すると思う。 ・意見交換会や個別計画の策定に向け説明会を行ったことで支えあいの意識の何かが変わったのかわからないので評価しにくい。 ・予定より進んでいる。
	2	2	1	2	2	1	1	1	12	1.5	・支えあいの意識の低い地区の取り組みへ介入を期待する。 ・H25の目標のように○カ所できるといって、H25の目標のようになっているのか。
	3	2	2	2	2	1	1	2	14	1.8	・改めてちらしを作るなどは必要ないと思うが、広報誌の一部にとどまらずに地域放送とか発信の必要性はあると思う。
	4	2	3	2	3	3	1	3	18	2.3	・引き継ぎ設立支援を。 ・今後も協力に進めて下さい。 ・2のマップと同じ。向カ所立ちあがっただけでは評価できない。
B	1	2	2	2	2	1	1	2	14	1.8	・制度のすきまを埋める事業として必要性高い。活動の継続を。 ・会に参加することが充実につながるのか？
	2	2	1	1	2	2	2	2	13	1.6	・よく調べていると思う。さらに充実、活用を期待する。内容については事業者努力の部分とは思うが、地域のニーズが事業者に届くと良いですね。 ・社会資源マップの作成は大切だと思う。が、生活支援コーディネーターを依頼されなかったら実施できていないことなのか？
	3	1	1	1	1	1	1	2	8	1.1	・他機関とは？どこを考えているのか。 ・集会所等が無い地域の集まる場の確保に知恵をしよう。
	4	2	1	2	2	3	1	1	13	1.6	・内容については事業者努力の部分とは思うが、地域のニーズが事業者が届くと良いですね。 ・基本は行政の業務と思う。
C	1	2	1	2	2	1	1	2	13	1.6	・依頼がなかったら場の提供につながらなかったのか。 ・社協としての戦略的な学びの場は？（昨年までは西土佐福祉大会があったが）
	2	2	2	2	3	2	2	1	16	2.0	・少子高齢化で介護人材不足は今も現実問題。専門的知識の必要ない支援は自分達で支え合うしくみを作っていくかなければ、参加することと支援とは違うと思うが、たんぼぼの会の松岡さんの意見等より何らかの支援につながっていると判断しました。
	3	2	2	2	3	2	1	1	16	2.0	・参加することと支援とは違うと思うが、たんぼぼの会の松岡さんの意見等より何らかの支援につながっていると判断しました。
	4	2	2	2	3	3	1	1	15	1.9	・ボランティアポイントを利用して自分ができるなくなってきた時に利用できるポイント券制度。健康福祉委員会エリア地区、もしくは市との協議が必要だが、市内の店の商品券と交換できる制度とか... ・何かハイレベルなボランティアでなく（それも必要ですが）、自分達の老後の安心につながるようなボランティアができると思う。 ・充実？かどうか評価不能。

・資源（金含む）や人が無い条件下である事を考えれば十分やれていると思うが、設定項目の達成度として評価した。

実施目標①まとめ

活動目標 支えあえる地域 安心・安全の地域

自己評価（事務局）	第2期計画へ向けて事務局（案）	第2期計画へ向けて委員の意見	備考
<p>《活動目標①》支えあい意識の向上 平成24年度より始まった健康福祉地域推進事業が浸透してきたこともあり、支え合いの地域づくり事業を実施する地区が78ヶ所となったことにより、気になる人への見守り等の必要性を感じている地域は増えつつある。今年度は、旧町村単位の小地域での意見交換を行ったが、地域により温度差があることを感じた。また、災害時等の避難行動要支援者避難支援個別計画を作成することで、地域の中で、支えあいの意識の向上が図れるものと思われる。</p>	<p>健康福祉地域推進事業の支えあい未実施地区への対応や小地域単位の意見交換の結果を踏まえ、次期計画へ継続的取り入れしていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続する 	
<p>《活動目標②》支えあいマップの作成 健康福祉地域推進事業の支え合いの地域づくり事業を実施するにあたり、地区の気になる人を視覚化するツールとして有効に活用された。今年度については、2地区しかマップを作成していないことから、もう少し多くの地域へのアプローチが必要だったと考えている。</p>	<p>第1期の計画期間では、支え合いの地域づくり事業を行っている地区の3分の1程度しか行っていないことから、次期計画へ継続的取り入れていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続する 	
<p>《活動目標③》各種イベントの発信 前年度と同様に各種イベント情報等の発信は、折込広告や市の発行する広報誌・社協だよりを活用して広く発信していると思われる。西土佐地域では、各団体等の依頼によりイベント情報の発信の呼びかけの協力等を行った。</p>	<p>各団体や機関が、工夫を凝らしてイベント情報等の発信を行っていることから、次期計画では、継続性の必要はないと思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・打ち切る （地域性を考慮し情報は必要に応じ発信していく） 	
<p>《活動目標④》健康福祉地域推進事業の設立及び支援 健康福祉委員会の設置率は、平成27年12月現在75%で99ヶ所の設置となつている。新興住宅地等では、集会所等の不足により設置率が低い傾向がみられる。また、設置されていても代表者等の不在により休止する地区が2ヶ所出てきている現状を踏まえ、後継者等の発掘等を視野に入れながら支援を進める必要があると感じている。現在、委員会が設置されていない地区への介入方法等の仕立等が今後の課題である。</p>	<p>委員会の未設置地区が25%もあることから、次期計画へ継続的取り入れていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続する 	

実施目標②まとめ

活動目標 交流の場 地域資源を活かした活動

自己評価 (事務局)	第2期計画へ向けて事務局 (案)	第2期計画へ向けて委員の意見	備考
<p>《活動目標①》あつたかふれあいセンターの充実 継続的な関係性は維持しつつ、運営推進会議や検討委員会に参加した。特に運営推進会議では、あつたかふれあいセンターの事業計画作成に携わり、今後のあつたかふれあいセンターの動きを確認しながら、この計画に位置付けている必要性について再認識した。</p>	<p>あつたかふれあいセンターは、地域の拠点となる必要があるとことなので、次期計画へ継続的に取り入れていきたい。</p>	<p>・継続する</p>	
<p>《活動目標②》地域資源情報の発掘及び発信 地域のニーズを5つの(移動・交流・日常生活・日常生活外・基盤)領域に分け、それぞれの領域をわかりやすく視覚化を行うための、地域の資源情報を生活支援コーディネーターが作成している。まだ、未完成ではあるものの情報等が整理された段階で、発信していくかを検討する必要がある。</p>	<p>地域資源情報の発掘及び発信は、大変重要な事であるので、次期計画では介護予防・生活支援事業と連携を図る方向で取り入れていきたい。</p>	<p>・事務局 (案) とする</p>	
<p>《活動目標③》文化的な交流の場づくり 旧中村地区では集会施設が少ない状況を受け、一条の里 (東町) の有効活用をしてもらっている。空き家等はあるものの、各種関係機関と連携して取り組む必要があるが、活動計画の中での限界を感じている。</p>	<p>行政や各関係機関との連携が必要となることから、他機関等で担ってもらう事が適当であると判断し次期計画では打ち切る方向としたい。</p>	<p>・打ち切る</p>	
<p>《活動目標④》買い物バス運行の検討 買い物バス運行の検討については、いろいろな課題があることから、活動計画では既存の行商 (移動販売) 等の充実を図ることの方が適当ではないかと考える。活動計画②の地域資源情報の発掘及び発信のところでもめるように、介護予防・生活支援事業と連携することで買い物に困る人への対応が可能ではないかと思われる。</p>	<p>活動計画②の地域資源情報の発掘及び発信のところを含めて、次期計画では介護予防・生活支援事業と連携を図る方向でカバーしたい。</p>	<p>・事務局 (案) とする</p>	

実施目標③まとめ

活動目標 人材育成及び組織づくり 福祉教育の推進

自己評価（事務局）	第2期計画へ向けて事務局（案）	第2期計画へ向けて委員の意見	備考
<p>《活動目標①》大人の学びの場の提供</p> <p>福祉大会等の大きな会場の中で、講演会を行うことで効率よく学びの場の提供を行っている。しかし、その場所に来れない人への配慮等を考えると、地域の集会所等で行う必要性がある。今後は、健康福祉委員会をベースにしながら学びの場の提供を行っていくけば、地域で学びの場の提供ができるものと思われる。</p>	福祉大会等の大きな会場の中で講演会を引き続き行い、次期計画では、健康福祉委員会の支援の中で取り入れていきたい。	・事務局（案）とする	
<p>《活動目標②》テーマ別の継続的な学習への取組み</p> <p>前年度に引き続きキャリア教育支援事業で、中学生を対象に3つのステップで、福祉についての講演や実体験を行い一定の成果を得た。また、手話講座や傾聴講座等を開催し、継続的に学習できる土台となった。</p>	福祉教育の充実を図る必要があることから、次期計画へ継続的に取り入れていきたい。	・継続する	
<p>《活動目標③》当事者団体・家族会等への支援</p> <p>認知症の人と家族の会「たんぼぼの会」や精神障害者家族の会「虹の会」に定期的に参加することにより、顔の見える関係となり相談出来やすい体制の整備に努めた。また、必要に応じて関係機関等へ繋ぐなど一定の成果があったものと思われる。</p>	まだ、始まったばかりの支援であり、次期計画へ継続的に取り入れていきたい。	・継続する	
<p>《活動目標④》ボランティアセンターの充実</p> <p>ボランティア連絡協議会や各団体と連携して、ボランティアのマッチングを行っているが、中村地域は実質的に少ないことから、今後はボランティアの掘り起こしも含めて充実を図る必要がある。活動目標②テーマ別の継続的な学習への取組みでも上げているが、継続的に各種講座を開く必要があると思われる。</p>	今期の計画では、ボランティアセンターの充実まで届いていないことから、次期計画へ継続的に取り入れていきたい。	・継続する	

以上実施目標評価経過やまとめを行い、第2期計画に至っている。

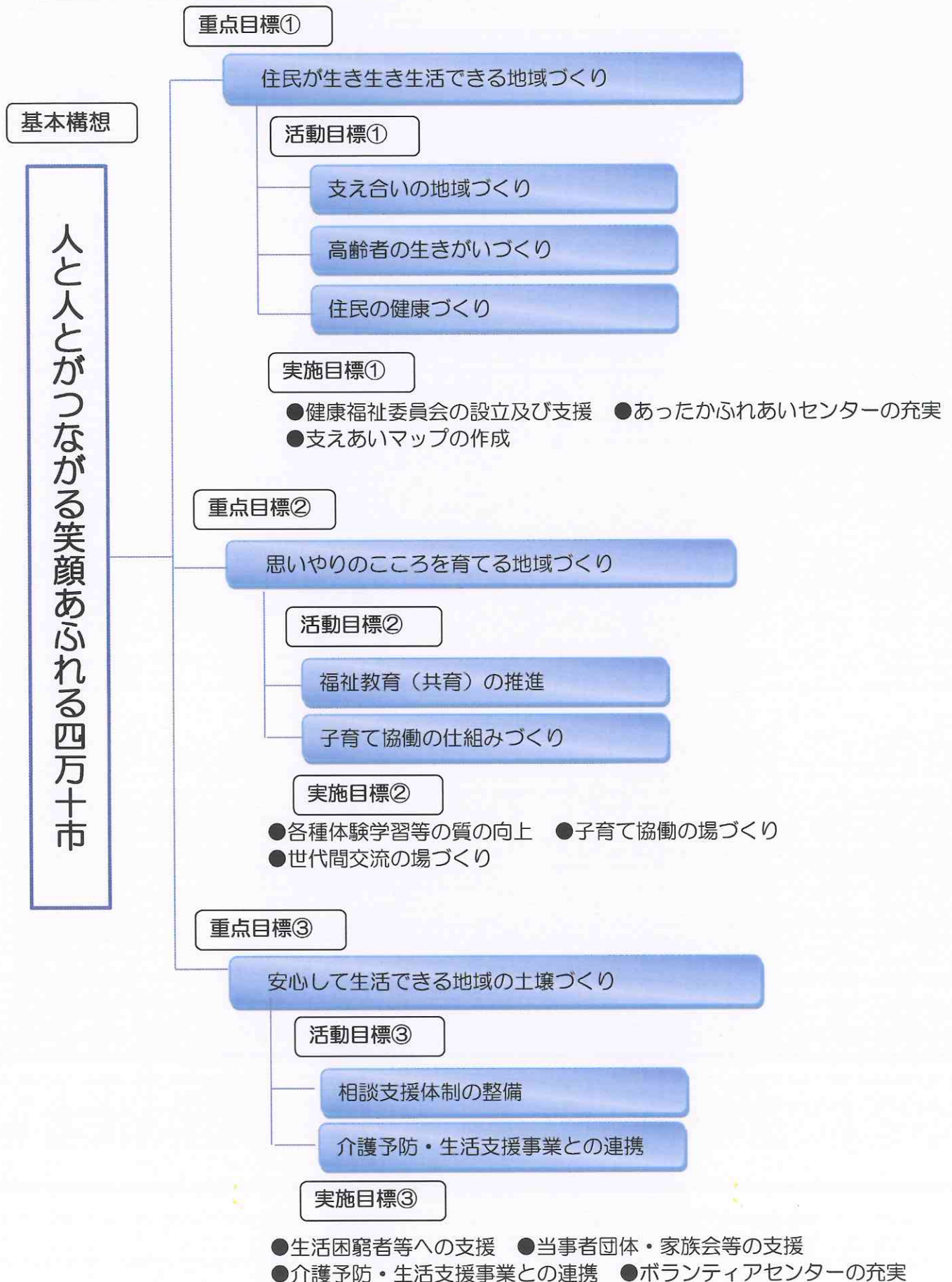
第4章

第2期四万十市地域福祉活動計画



第4章 第2期四万十市地域福祉活動計画

①四万十市地域福祉活動計画体系図



②基本構想

人と人がつながる笑顔あふれる四万十市

少子・高齢化の進行や働き方など生活様式の変化に伴い、地域社会や家庭の様相は大きく様変わりし、更に経済状況や雇用環境の厳しさも相まって、孤立死や自殺、ひきこもりなどの社会的孤立・経済的孤立・虐待や悪質商法など権利擁護の問題など、地域における生活課題は深刻化しており、公的な制度サービスのみで解決するには限界があり、今後どのような仕組みを考えていくのかが重要となってきます。

この第2期計画は、第1期計画で設置されていた評価検討委員会を毎年開催し、その評価に基づき重点目標・活動目標・実施目標の検討を行い、「人と人とのつながりの必要性」や「笑顔は健康の源」というキーワードから、第1期計画の基本構想を引継ぎ「人と人がつながる笑顔あふれる四万十市」として、共生・自立で支えあえる地域社会を目指していきます。



③重点目標

1. 住民が生き生き生活できる地域づくり

地域の中で住民が健康で暮らせる・高齢者の生きがいもてる・支えあいのできる地域に向けて、各地区の健康福祉委員会の設立や側面的な支援にとりくみ、生き生きと生活できる地域づくりを目指します。

2. 思いやりのところを育てる地域づくり

福祉教育（共育）等を通じて、子どもの頃から福祉に興味を持ってもらいながら、大人も共に学び、思いやりのところが育てられるような場づくり等も含めた地域づくりを目指します。

3. 安心して生活できる地域の土壌づくり

生活で色々な困難を抱えた方が、気軽に相談できるような仕組みづくりや介護予防・生活支援事業との連携や整備等を行い安心して生活できる地域の土壌づくりを目指します。

④活動目標（実施目標）

1. 住民が生き生き生活できる地域づくり

1.健康福祉委員会の設立及び支援（第1期計画から継続）

☆数値目標 平成31年度までに現在の設置率75%から85%を目指します。

主な担い手	対象地域	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
社協	市内全域	実施	→		

*具体的な内容

- ・現在、四万十市が実施している健康福祉地域推進事業で、健康福祉委員会の未設置地区の設立の支援や、事業の継続が困難になりつつある委員会へ入り、代表者等と協議をしながら事業の充実を図り支えあえる地域を目指します。



2.あったかふれあいセンターの充実（第1期計画から継続）

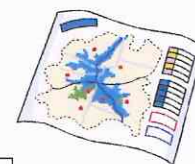
主な担い手	対象地域	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
あったかふれあいセンター	市内全域	実施	→		

*具体的な内容

- ・市内3カ所に設置されている、あったかふれあいセンターの機能や内容などの紹介を通じ、誰もが集えるセンターとして周知等を行いながら、新たなニーズの掘り起こしも含め関係機関等への連絡調整を行い事業の充実を目指します。

3.支えあいマップの作成（第1期計画から継続）

☆数値目標 毎年5地区以上で支えあいマップの作成を目指します。



主な担い手	対象地域	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
地域住民	市内全域	実施	→		

*具体的な内容

- ・地域の実情を知り、どこに援助を必要とする人がいるのか等を可視化し、住民相互の支えあいができるような機運を高める事を目的に支えあいマップを作成し、支えあえる地域づくりを目指します。また、大規模災害等に備え、避難行動要支援者についても配慮しながら視覚化を行う。

2. 思いやりのこころを育てる地域づくり

1. 各種体験学習等の質の向上（第1期計画から継続）

☆数値目標 毎年5校以上の学校で実施を目指します。

主な担い手	対象地域	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
社協	市内小中学校	実施			→

＊具体的な内容

- ・市内の小中学校の児童生徒に、高齢者疑似体験等の各種体験を通じて、それぞれの身体等の状況を知り、その人の人権についても学ぶことが出来るプログラムで、思いやりが持てるような事業に心がけ資質の向上を目指します。



2. 子育て協働の場づくり（新規）

☆数値目標 平成31年度までに1カ所以上の場づくりを目指します。

主な担い手	対象地域	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
地域住民	市内全域	調査	検討	実施	→

＊具体的な内容

- ・安心して子育てができるような場づくりについて、民生児童委員や主任児童委員、関係機関と検討等を行いながら、協働できる仕組みや場の構築を目指します。

3. 世代間交流の場づくり（新規）

☆数値目標 毎年5地区の委員会で実施を目指します。



主な担い手	対象地域	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
地域住民	地区健康福祉委員会	実施			→

＊具体的な内容

- ・地区の健康福祉委員会をベースにし、その地区の小中学校等との連絡調整を行いながら、高齢者が児童生徒と交流が持てるような場づくりを行い、思いやりの心を育てる地域づくりを目指します。

3.安心して生活できる地域の土壌づくり

1.生活困窮者等への支援（新規）

主な担い手	対象地域	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年
社 協	—	実施	→	→	→

*具体的な内容

- 生活で色々な困難を抱えた方や生活が困窮している方が、気軽に相談出来るような体制づくりの整備や住民への周知を行い、また、フードドライブを積極的に行いフードバンクを活用する等しながら、安心して生活できる地域を目指します。

2.当事者団体・家族会等の支援（第 1 期計画から継続）



主な担い手	対象地域	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年
社 協	—	実施	→	→	→

*具体的な内容

- 当事者団体やその家族会等が、自主的に行っている活動に積極的に参加し、側面的な協力を行いながら団体の支援等を目指します。

3.介護予防・生活支援事業との連携（新規）

主な担い手	対象地域	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年
社 協	市内全域	実施	→	→	→

*具体的な内容

- 介護が必要な状態になっても、すべての住民が安心して日常生活を過ごす事ができ、それぞれが誇りをもって自分らしく生きることができる地域を目指し、介護予防・生活支援事業と連携し事業の充実をめざします。

4.ボランティアセンターの充実（第 1 期計画から継続）



主な担い手	対象地域	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年
社 協	市内全域	実施	→	→	→

*具体的な内容

- ボランティア登録の見直しを含め、ボランティアの需要と供給の調整等を行い、ボランティアが生きがいを持って活動できる地域を目指します。

⑤活動目標（実施目標）の内容概略

実施目標①

項目	主な担い手	対象地域	計画年度	内容等	備考
1. 健康福祉委員会の設立及び支援	社協	市内全域	H28年度～	健康福祉委員会の未設置地区の設立の支援や、事業の継続が困難になりつつある委員会へ側面的な支援等を行う	第1期計画からの継続
2. あったかふれあいセンターの充実	あったかふれあいセンター	市内全域	H28年度～	市内3カ所に設置されている、あったかふれあいセンターの機能や内容などの紹介を通じ、誰もが集えるセンターとして周知等を行いながら、新たなニーズの掘り起こし等を行う	第1期計画からの継続
3. 支えあいマップの作成	地域住民	市内全域	H28年度～	地域の実情を知り、援助を必要とする人等を可視化し、住民相互の支えあいができるような支えあいマップを作成する	第1期計画からの継続

実施目標②

項目	主な担い手	対象地域	計画年度	内容等	備考
1. 各種体験学習等の質の向上	社協	市内小学校	H28年度～	市内の小中学校の児童生徒に、高齢者疑似体験等の各種体験を通じて、その人の人権についても学ぶことができるプログラムを作成する	第1期計画からの継続
2. 子育て協働の場づくり	地域住民	市内全域	H28年度調査 H29年度検討 H30年度～	安心して子育てができるような場づくりについて、関係機関と検討等を行いながら、協働できる仕組みや場づくりを目指します	新規
3. 世代間交流の場づくり	地域住民	地区健康福祉委員会	H28年度～	地区の健康福祉委員会をベースにし、その地区の小中学校等との連絡調整を行いながら、高齢者が児童生徒と交流が持てるような場づくりを行う	新規

実施目標③

項目	主な担い手	対象地域	計画年度	内容等	備考
1. 生活困窮者等への支援	社協	—	H28年度～	生活で困難を抱えた方や生活が困窮している方が、気軽に相談出来るような体制づくりの整備や住民への周知を行い、また、フードバンクを活用しながら支援を行う	新規
2. 当事者団体・家族会等の支援	社協	—	H28年度～	当事者団体やその家族会等が、行っている活動に参加し、側面的な協力を行いながら団体の支援等を行う	第1期計画からの継続
3. 介護予防・生活支援事業との連携	社協	市内全域	H28年度～	要支援状態等になっても、すべての住民が安心して日常生活を過ごす事ができ、自分らしく生きることが出来る地域づくりを行う	新規

⑥実施目標一覧表

1.住民が生き生き生活できる地域づくり

活動目標	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年
1.健康福祉委員会の設立及び支援	実施			↑

活動目標	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年
2.あったかふれあいセンターの充実	実施			↑

活動目標	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年
3.支えあいマップの作成	実施			↑

2.思いやりの心を育てる地域づくり

活動目標	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年
1.各種体験学習等の質の向上	実施			↑

活動目標	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年
2.子育て協働の場づくり	調査	検討	実施	↑

活動目標	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年
3.世代間交流の場づくり	実施			↑

3.安心して生活できる地域の土壌づくり

活動目標	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年
1.生活困窮者等への支援	実施			↑

活動目標	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年
2.当事者団体・家族会等への支援	実施			↑

活動目標	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年
3.介護予防・生活支援事業との連携	実施			↑

活動目標	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年
4.ボランティアセンターの充実	実施			↑



第5章

計画の進行管理・評価

第5章 計画の進行管理・評価

①計画の評価見直し等

第2期計画は、第1期計画から継続している実施目標が多く、4年間にわたり行われた評価検討委員会で検討された結果である。向こう4年取組む中で、ニーズや課題の変化、取組み状況等も変わる事（第1期計画から学んだこと）が予想され、また、この計画は、住民主体の計画であることからフレキシブルな対応が可能である。

以上のことから、第2期計画でも評価検討委員会を定期的を開催しながら、評価・分析を行い、必要に応じて随時計画の見直しを行うものとしします。



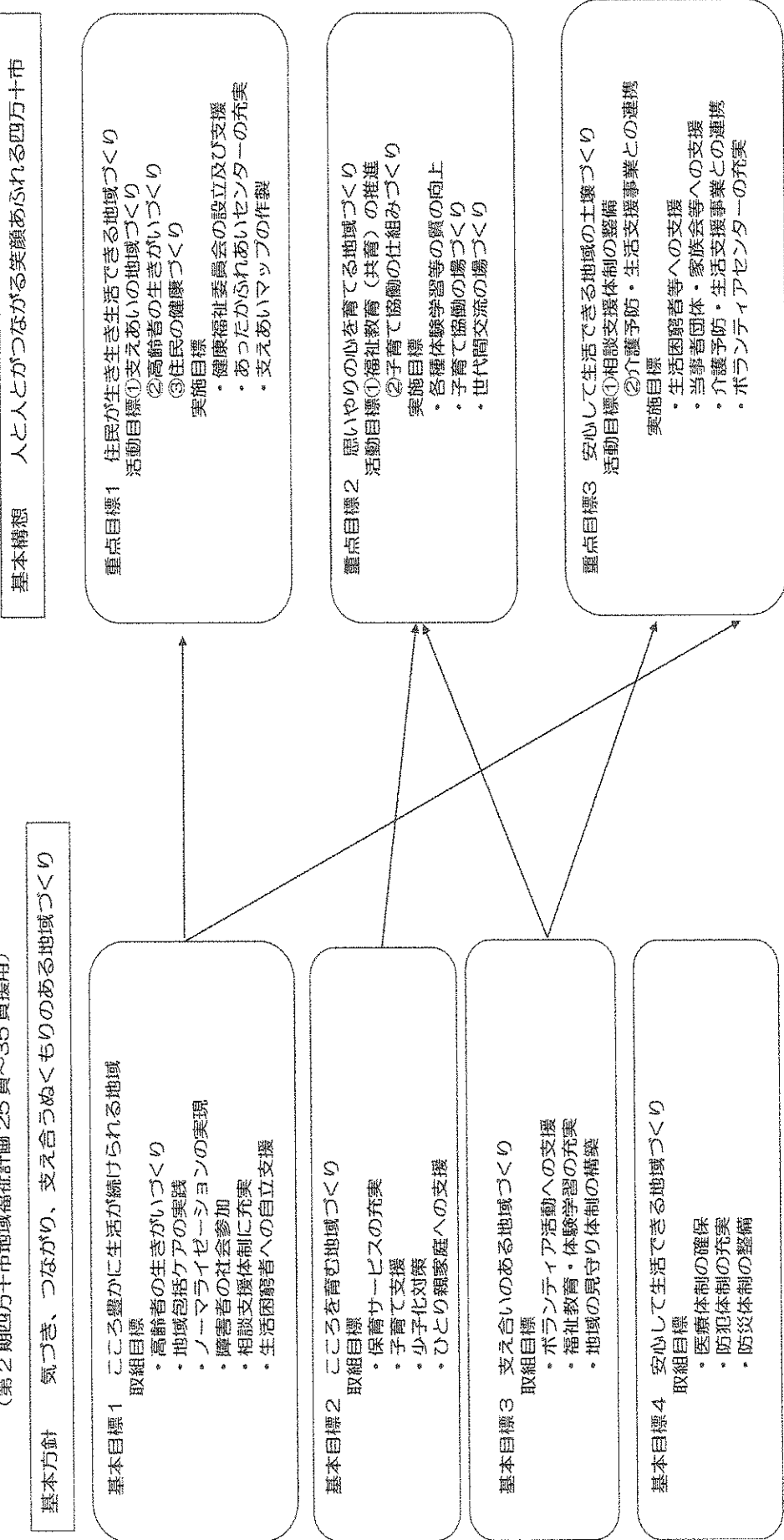


資料編



①第2期四万十市地域福祉計画と第2期四万十市地域福祉活動計画の体系図

(第2期四万十市地域福祉計画 25頁～35頁採用)



③社会福祉法 抜粋（参考）

（目的）

第1条 この法律は、社会福祉を目的とする事業の全分野における共通的基本事項を定め、社会福祉を目的とする他の法律と相まって、福祉サービスの利用者の利益の保護及び地域における社会福祉（以下「地域福祉」という。）の推進を図るとともに、社会福祉事業の公明かつ適正な実施の確保及び社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図り、もって社会福祉の増進に資することを目的とする。

（地域福祉の推進）

第4条 地域住民、社会福祉を目的とする事業を営む者及び社会福祉に関する活動を行う者は、相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるように、地域福祉の推進に努めなければならない。

（市町村地域福祉計画）

第107条 市町村は、地方自治法第2条第4項の基本構想に即し、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画（以下「市町村地域福祉計画」という。）を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、住民、社会福祉を目的とする事業を営む者その他社会福祉に関する活動を行う者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるとともに、その内容を公表するものとする。

- 1 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項
- 2 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項
- 3 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項

（市町村社会福祉協議会及び地区社会福祉協議会）

第109条 市町村社会福祉協議会は、一又は同一都道府県内の2以上の市町村の区域内において次に掲げる事業を行うことにより地域福祉の推進を図ることを目的とする団体であって、その区域内における社会福祉を目的とする事業を営む者及び社会福祉に関する活動を行う者が参加し、かつ、指定都市にあってはその区域内における地区社会福祉協議会の過半数及び社会福祉事業又は更生保護事業を営む者の過半数が、指定都市以外の市及び町村にあってはその区域内における社会福祉事業又は更生保護事業を営む者の過半数が参加するものとする。

- 1 社会福祉を目的とする事業の企画及び実施
- 2 社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助
- 3 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成
- 4 前3号に掲げる事業のほか、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業

④四万十市地域福祉活動計画評価検討（策定）委員関係者等名簿

番号	役職	氏名	所属・団体	備考
1	評価検討委員会委員長	中之所 克己	大川筋下流老人クラブ	
2	評価検討委員会副委員長	坂本 登志行	中村東町地区民生委員児童委員	
3	評価検討委員会委員	武田 正	敷地元区長	
4	〃	岩合 久	古津賀第2団地健康福祉委員会	
5	〃	芝 伸悟	えっころネット	
6	〃	谷 陽	あったかふれあいセンター「アルメリア」	
7	〃	松岡 時規子	四万十市認知症家族会「たんぽぽの会」	
8	〃	宮地 淳	蕨岡地区民生委員児童委員	
9	〃	夕部 喜久	渡川地区民生委員児童委員	
10	〃	横山 恵美子	特定非営利法人「ぴーす」	
11	〃	阿部 定佳	四万十市福祉事務所	
12	〃	中田 智子	四万十市保健介護課	

アドバイザー

番号	役職	氏名	所属・団体	備考
1	主任	芝 弘美	四万十市地域包括支援センター	
2	チーフ	芝岡 美枝	幡多福祉保健所地域支援室	
3	技師	岡本 静佳	〃	
4	主任	田村 由隆	高知県社会福祉協議会 地域・生活支援課	
5	主事	北村 昌也	〃	

事務局

番号	役職	氏名	所属・団体	備考
1	会長	武田 光司	四万十市社会福祉協議会	
2	局長	度長 靖	〃	
3	次長	山本 博昭	〃	
4	支所長	今城 久枝	〃	
5	課長	西村 留利	〃	
6	〃	安田 巧	〃	
7	〃	秋森 由為	〃	
8	主任	今村 清	〃	
9	主事	小谷 真司	〃	

社会福祉法人 四万十市社会福祉協議会
四万十市右山五月町 8-3
TEL0880-35-3011
FAX0880-35-5241
ホームページ <http://shimanto-s.or.jp/>